

新型コロナウイルス感染対策 ガイドライン



Tokyo Swimming Association

改定版（2023/3/13）

1 基本事項

■はじめに

新型コロナウイルスやインフルエンザの感染を最大限に防止しながら水泳講習及び水泳競技会を運営するためには、受講者、指導者、保護者、選手、チームスタッフ、競技役員全ての方の理解と協力が必要です。残念ながら感染のリスクは0（ゼロ）ではありません。ひとり一人が自覚と責任をもって自己防衛することが重要です。自己防衛は、家族や仲間を守ることもつながります。「自分は大丈夫」の考えは捨て、すべての人が新型コロナウイルスの特性を正しく理解し、感染防止に努めてください。

■新型コロナウイルス感染症予防の基本事項

新型コロナウイルスの感染経路は、咳やくしゃみ等の飛沫が目や鼻、口の粘膜に付着し、呼吸器に入ることによって感染する飛沫感染が主体であり、換気の悪い環境では咳やくしゃみなどがなくても感染すると考えられている。また、喀痰や鼻水等の体液およびそれらで汚染された環境に触った手で目や鼻、口の粘膜に触れることによって感染する接触感染もあるため、上記2つの経路の感染予防策を徹底する。有症者が感染伝播の主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもあるため、常に予防を意識する。

・飛沫感染予防

マスクの着用は個人の判断に委ねるが、人が密集する場合はマスク着用を推奨する。全員が咳エチケットを徹底する。

換気を徹底する。

・接触感染予防

流水と石けんによる手洗いもしくは擦式アルコール消毒薬による手指消毒を推奨する。アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含浸クロスで定期的に高頻度接触部位および共用物の清拭消毒を行う。

■プールの水質

プールの水質については、厳重な衛生基準によって徹底管理されている。厚生労働省や文部科学省はそれぞれ消毒について基準を定めており（遊離残留塩素濃度は0.4mg/L以上）、プールでの感染（アデノウイルスやエンテロウイルス）を防止している。新型コロナウイルスもこれらの感染予防により不活化されると考えられる。

つまり、プールでは新型コロナウイルスの流行以前からウイルス感染の対策がきちんととられていたことになる。

2 参加者の遵守事項

1. 講習当日の体調不良者は入場（来場）を見合わせる。
2. 入場時検温にて発熱が認められた場合は、救護担当者の指示に従う。
3. 入場前に体調不良となった場合は、会場内に入場せず帰宅するか、判断に迷う場合は入場口のスタッフに申告する。
4. 会場内で体調不良となった場合は、近くのスタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つ。携帯電話等で連絡可能な場合はその場で実行委員会に連絡し指示に従う。
5. こまめな手洗いと手指消毒を心掛けること。
6. 会場内でのマスク着用は個人の判断に委ねる。ただし、人が密集する場所ではマスクの着用を推奨する。
7. マスクを外した時は、専用のケースまたはポケット等に収納すること。咳やくしゃみが出る場合は、口を「肘で覆う」または「タオルや衣類で覆う」など咳エチケットを徹底すること。
8. 不要になったマスクは、ビニール袋等に収納して持ち帰ること。
9. 声を出して応援する場合はマスクを着用すること。
10. 水泳用具・タオル・飲食物等は、専用の物を用意し共用しないこと。
11. 会主催者・施設管理者が定めたその他の措置・指示に従うこと。

2020年8月1日 初版
2020年9月1日 一部改訂
2021年9月10日 一部改訂
2022年2月24日 一部改訂
2022年4月25日 一部改訂
2022年12月1日 一部改訂
2023年3月13日 一部改訂

公益財団法人東京都水泳協会医科学委員会監修

【公益財団法人東京都水泳協会】
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-3-18 広尾オフィスビル8F
電話 03-5422-6147（平日10時～17時）
e-mail oc@tokyo-swim.org